

(仮称)宮津与謝広域ごみ処理施設整備及び運営事業

優先交渉権者選定基準

平成27年10月

宮津与謝環境組合

【優先交渉権者選定基準 目次】

第1	優先交渉権者選定の手順	2
1-1	優先交渉権者選定基準の位置づけ	2
1-2	選定の手順	2
第2	資格審査	5
2-1	応募資格要件の項目	5
第3	提案審査	6
3-1	技術提案の基礎審査	6
3-1-1	応募提案書類の確認	6
3-1-2	技術提案書の基礎審査	6
3-2	技術提案の定量化審査	6
3-2-1	審査項目	6
3-2-2	技術提案に関する得点化方法	6
3-3	提案価格の確認	7
3-4	提案価格の定量化審査	7
3-5	総合得点の算定方法	7
第4	技術提案の定量化審査において審査する点	8
第5	審査結果等の公表	8

第1 優先交渉権者選定の手順

1-1 優先交渉権者選定基準の位置づけ

「(仮称)宮津与謝広域ごみ処理施設整備及び運営事業」(以下「本件事業」という。)を実施する事業者は、エネルギー回収型廃棄物処理施設の整備及び運営・維持管理に係る専門的な知識やノウハウ(運営管理能力等)を有することが必要となるため、優先交渉権者の決定に当たっては、提案価格だけでなく、事業提案内容によって優先交渉権者を決定する公募型プロポーザルを採用する。

この「(仮称)宮津与謝広域ごみ処理施設整備及び運営事業 優先交渉権者選定基準」(以下「優先交渉権者選定基準」という。)は、宮津与謝環境組合(以下「発注者」という。)が本件事業を実施する優先交渉権者の募集・選定を行うに当たって、本件公募に応募しようとする者を対象に交付する募集要項と一体のものである。

優先交渉権者選定基準は、公募型プロポーザル方式により優先交渉権者を選定するに当たって、発注仕様書等の内容を踏まえ、応募者から提出された価格提案書及び技術提案書(以下「提案書等」という。)を客観的に評価する基準及び方法等を示し、応募者の行う提案に具体的な指針を与えるものである。

1-2 選定の手順

本件事業における優先交渉権者の選定は、公募型プロポーザル方式に基づき、図1に示す手順で実施する。

1-2-1 資格審査

発注者は、本件事業の公募に参加を希望する者(以下「応募希望者」という。)が提出する応募資格確認申請書類により、募集要項に記載した応募者の備えるべき応募資格要件(以下「応募資格要件」という。)を満たしていることを確認する。なお、応募資格要件を満たしていることが確認できない場合は失格とする。

1-2-2 提案審査

ア. 技術提案書等の基礎審査

(仮称)宮津与謝広域ごみ処理施設に関わる事業者選定委員会(以下「選定委員会」という。)は、応募希望者のうち、応募資格要件を満たしている者(以下「応募者」という。)が提出する技術提案書及び設計図書(以下「技術提案書等」という。)に記載された内容が、優先交渉権者選定基準に示す基礎審査項目を満たしていることを確認する。基礎審査項目について1項目でも満たさないことが確認された場合は失格とする。

イ. 技術提案書等の定量化審査

選定委員会は基礎審査項目を満たしていることが確認された者が提出した技術提案書等に記載された内容について、優先交渉権者選定基準に示す得点化基準に従って評価する。

ウ. 提案価格の確認

発注者は基礎審査項目を満たしていることが確認された者が提出する価格提案書に記載された提案価格が提案限度額を超えていないことを確認する。この結果、提案価格が提案限度額を超える場合は失格とする。

エ. 提案価格の定量化審査

選定委員会は提案限度額を超えていないことが確認された者が提出した提案価格について、優先交渉権者選定基準に示す得点化基準に従って評価する。

オ. 総合得点の算出

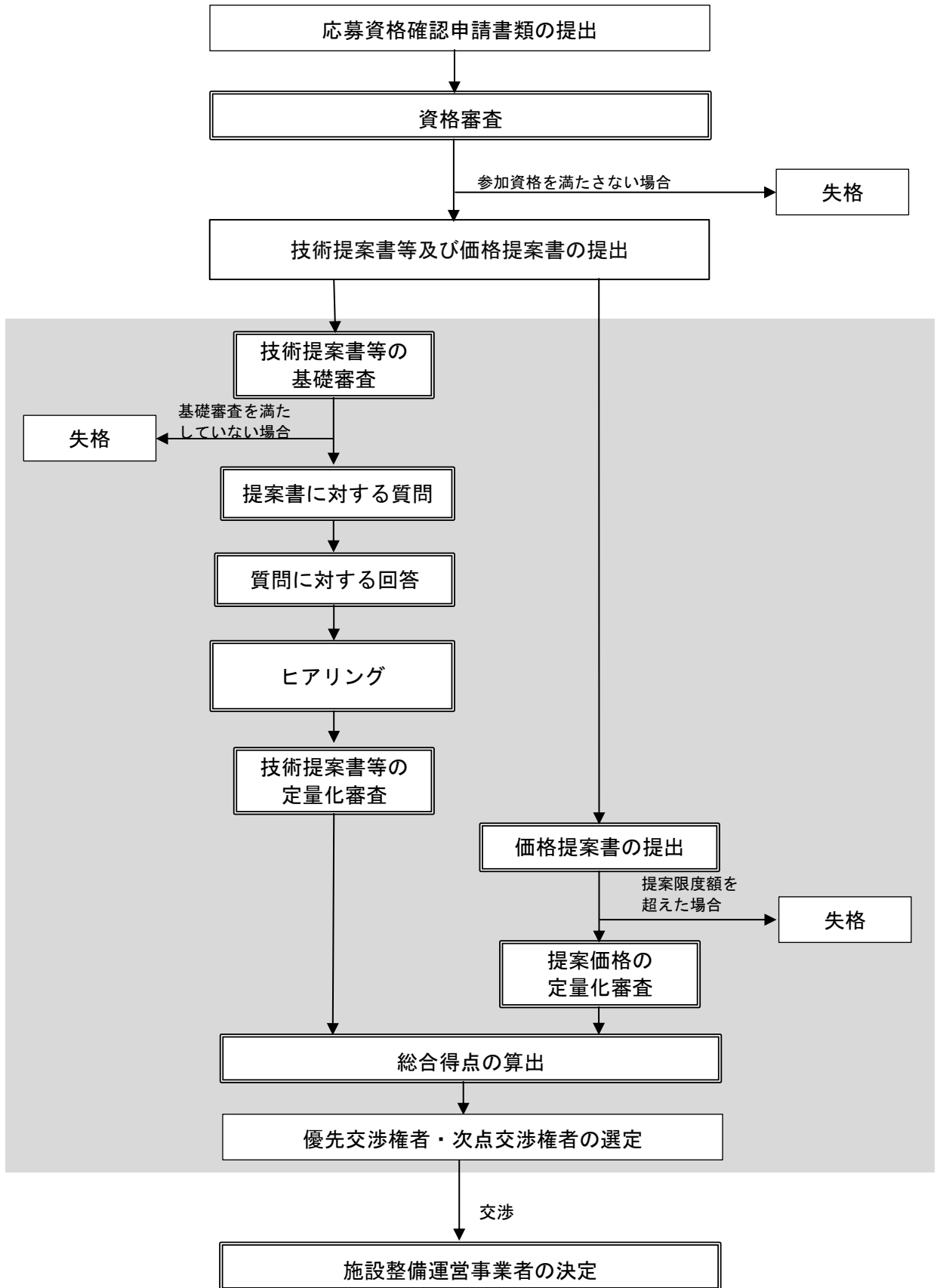
選定委員会は、技術提案書等及び提案価格の定量化審査における得点を合計し、総合得点を算定する。

カ. 優先交渉権者の選定

選定委員会は、総合得点が最も高い提案を行った応募者を優先交渉権者とし、次いで総合得点が高い提案を行った応募者を次点交渉権者として選定する。なお、総合得点の最も高い提案が複数ある場合、当該者のくじ引きにより優先交渉権者を選定する。

キ. 施設整備運営事業者の決定

発注者は、選定委員会の選定結果を踏まえ、優先交渉権者及び次点交渉権者を決定する。発注者は、優先交渉権者と契約内容等の協議を行い、協議が整った場合には、優先交渉権者を施設整備運営事業者とし事業契約を締結する。優先交渉権者との協議が整わない場合、発注者は、次点交渉権者と協議を行う。



※優先交渉権者・次点交渉権者を選定する選定委員会の事務は図中網掛け部分

図1 優先交渉権者選定の手順

第2 資格審査

2-1 応募資格要件の項目

応募資格確認申請書類から、次の事項を確認する。応募資格要件の確認基準日は、応募資格確認申請書類受付最終日とする。

詳細については、募集要項「第3 応募に関する条件等」を参照のこと。

第3 提案審査

3-1 技術提案の基礎審査

3-1-1 応募提案書類の確認

応募提案書類の確認提出された応募提案書類がすべて揃っていることを確認する。

3-1-2 技術提案書の基礎審査

技術提案書に記載された内容が、下記の基礎審査項目を満たしていることを確認する。なお、下記ア.イ.の結果、技術提案の内容が基礎審査項目に示す事項を満足しない場合、または疑義等がある場合は、必要に応じて技術提案の改善を指示することがある。

- ア. 技術提案書の内容が発注仕様書に示す要求水準を満たしていること。
- イ. 技術提案書全体について、同一事項に対する2通り以上の提案又は提案事項間の齟齬、矛盾がないこと。

3-2 技術提案の定量化審査

技術提案書に記載された内容について、次の審査方法に従い定量化する。

3-2-1 審査項目

技術提案書における審査項目ごとの得点が、提案の優劣を決定するため、その項目については、施設の特性を踏まえつつ、施設の性能及び自主的な提案事項への配慮・工夫度合を評価することとした。また、配点については、いずれの項目も本件事業により民間の創意工夫を最大限に誘導しより良いサービスの提供を期待していくためには同等の重要度を有することとした。

審査項目及び配点については、別表1のとおりである。なお、各審査項目における審査基準等の詳細については、「第4 提案書の定量化審査において審査する点」を参照のこと。

3-2-2 技術提案に関する得点化方法

- ア. 提案を求めている審査項目の内、定性部分においては、次に示す5段階評価により、技術評価を行う。

評価	審査基準	得点化方法
A	当該審査項目において特に優れている	配点×1.0
B	AとCの中間程度	配点×0.75
C	当該審査項目において優れている	配点×0.5
D	CとEの中間程度	配点×0.25
E	当該審査項目において要求水準程度である	配点×0.0

- イ. ア.の技術評価については、選定委員会による審議により、審査項目ごとの得点化を行う。
- ウ. イ.の結果をもとに、算定式①により得点を付与する。
- エ. 算定式①については、後日、公表するものとする。

3-3 提案価格の確認

提出された提案価格が提案限度額を超えていないことを確認する。なお、提案価格が提案限度額を超えている場合は失格とする。

3-4 提案価格の定量化審査

- ア. 選定委員会による審議により提案価格の得点化を行う。得点化は、算定式②により行う。
- イ. 算定式②は、後日、公表するものとする。

3-5 総合得点の算定方法

「3-2 技術提案の定量化審査」、「3-4 提案価格の定量化審査」により算出した各応募者の得点から、次に示す算定式③により、各応募者の総合得点を算出する。

算定式③ 総合得点の算定式

$\left(\begin{array}{c} \text{当該応募者の} \\ \text{総合得点} \end{array} \right) = \left(\begin{array}{c} \text{当該応募者の} \\ \text{技術提案に関する得点} \end{array} \right) + \left(\begin{array}{c} \text{当該応募者の} \\ \text{提案価格に関する得点} \end{array} \right)$
--

第4 技術提案の定量化審査において審査する点

選定委員会では、各審査項目について、審査基準に基づき審査を行い、その内容に応じて、5段階評価により得点を付与する。なお、各項目については、各応募者の過去の経験を踏まえた、より実現性の高い提案が望ましいものとする。

第5 審査結果等の公表

審査結果等については、公表を行うとともに、応募者に対しては個別に通知する。

別表1 審査項目及び配点

分類	No.	評価項目	記載内容の指定	評価のポイント	配点	
—	—	本事業のコンセプト	地域性に配慮した明確な事業コンセプト	(各事業者の提案方針を確認するためのものであり、本項目は評価対象としないが、他項での提案において、本コンセプトに沿ったものかは評価される)	—	
施設の性能に関する項目	1	ごみを安定的かつ安全に処理する施設	メタンガス化施設およびごみ焼却施設におけるごみ質、ごみ量変動への工夫および両施設間の確実な連携機能	一般廃棄物を対象とするメタンガス化施設とごみ焼却施設との併設施設におけるごみ質、ごみ量変動に対し、実績を踏まえた有効な提案がされているか 特に、一般廃棄物を対象とするメタンガス化施設とごみ焼却施設との連携機能において、実績を踏まえた具体的かつ信頼できる提案がされているか 補修時等の休炉時を踏まえ、年間を通じて適正処理を行うための工夫がなされているか	20	
			メタンガス化施設およびごみ焼却施設での安定した施設稼働を実現する工夫	一般廃棄物を対象とするメタンガス化施設とごみ焼却施設との併設施設において、予想されるトラブルおよびその防止策について、実績を踏まえた設備面・運営面での具体的な提案がされているか 長期安定稼働を実現する維持補修について、一般廃棄物を対象とするメタンガス化施設とごみ焼却施設との併設施設での実績も踏まえた優れた提案がされているか		
			安全性・円滑性・メンテナンス性に優れた配置・動線の確保及び運営面での工夫	敷地内・工場棟において、一般廃棄物を対象とするメタンガス化施設とごみ焼却施設との併設施設での通行の安全性・円滑性・メンテナンス性に優れた配置・動線計画について実績を踏まえた具体的な提案がされているか		
	2	施設の信頼性を裏付ける建設・稼働実績	一般廃棄物を対象とするメタンガス化施設の国内での建設・稼働実績(実証施設含む)	一般廃棄物を対象とする処理能力3t/日以上メタンガス化施設の国内での建設・稼働実績(実証施設含む)がいくつあるか(提案する処理方式に限る) ※実績については、添付資料で実績表を提示	20	
			ごみ焼却施設の過去15年間の国内での建設実績	平成12年度以降に国内で竣工したごみ焼却施設の建設実績がいくつあるか(地方公共団体が発注した一般廃棄物処理施設であり、かつ提案する処理方式に限る) ※実績については、添付資料で実績表を提示		
			マテリアルリサイクル推進施設の過去15年間の国内での建設実績	平成12年度以降に国内で竣工したマテリアルリサイクル推進施設、リサイクルセンターまたはリサイクルプラザの建設実績がいくつあるか(地方公共団体が発注した一般廃棄物処理施設に限る) ※実績については、添付資料で実績表を提示		
	3	将来を見据えた資源循環システムへの展開性	有害物質管理方策	農薬、水銀といった家庭系ごみに含まれる可能性がある有害物質に関して、プロセスからの排除方策、資源循環システムへの混入防止が有効に講じられているか	20	
			資源循環効率向上への工夫	マテリアルリサイクル、エネルギーリカバリの視点から効率的なシステムが構築されているか		
			将来発生が予想される災害への対応方策	大規模災害発生時の対応や災害廃棄物処理に対する対応について有効な提案がされているか		
			将来的な循環システムへの展開性	将来的な生ごみ循環システムへの進化や余熱等を活用した事業創設に対する対応性、適合性に考慮がなされているか		
	メーカー自主提案に関する項目	4	周辺環境保全や環境啓発、地域社会貢献に対する提案	立地条件を踏まえた景観デザイン	立地条件を踏まえた景観デザインとなっているか	20
				公害防止基準に係る排ガス・騒音・振動・排水・悪臭等の環境対策	公害防止基準に係る環境対策について、一般廃棄物を対象とするメタンガス化施設とごみ焼却施設との併設施設での実績も踏まえ、建設工事期間および運営期間での優れた提案がされているか	
施設への理解を深める見学ルートや環境啓発に資する見学者用諸室・設備の整備および運営計画				環境啓発に効果的な見学ルート計画がされているか また、見学者用諸室および設備について、設備面・運営面で優れた提案がされているか		
地域社会に貢献する施設整備および運営				施設整備および運営において、地域社会に貢献する優れた提案がされているか		
5		地域経済への貢献に対する提案	地域経済に貢献する施設整備	建設工事期間における地域企業への発注額に対する優れた提案がされているか ※地域企業への発注提案額については、添付資料で地域企業が発行した見積書を提示 建設工事期間における地域企業への発注を確実にするための優れた提案がされているか	20	

合計 100